



報道関係者各位

2017年6月7日

ハイアット ホテルズ アンド リゾーツ

**北陸にハイアットブランド初進出！
「ハイアット セントリック 金沢」と「ハイアット ハウス 金沢」**

**日本初上陸の長期滞在型ホテル「ハイアット ハウス」
を含む 2 つのホテルブランドが 2020 年に同時開業予定**



外観パース(イメージ)

ハイアット ホテルズ コーポレーション(本社:米国イリノイ州シカゴ、社長兼最高経営責任者:マーク・ホプラメジアン、以下「ハイアット」)の関連会社であるハイアット インターナショナル アジアパシフィック リミテッドは、オリックス株式会社(本社:東京都港区、社長:井上 亮、以下「オリックス」)とホテル運営受委託契約を締結し、ハイアットのライフスタイルブランド「ハイアット セントリック」と長期滞在型ホテルブランドで日本初上陸となる「ハイアット ハウス」の 2 つのホテルを、2020 年 6 月(予定)に同時開業することを決定いたしました。

本ホテルは、ビジネスや観光を目的とした訪日外国人も多い北陸の玄関口・金沢の JR 金沢駅金沢港口(西口)の駅前に、国際的に評価の高いホテルを誘致したいという金沢市の意向を受けて、オリックスが提案、事業化を進めている複合施設内に誕生いたします。

金沢の新しいランドマークとなるこの複合施設内にハイアットのライフスタイルブランド「ハイアット セントリック」(外観パース:左)、隣接する棟の低層階に日本初上陸となる長期滞在型ホテルブランドの「ハイアット ハウス」(外観パース:右)を開業いたします。

「街の中心」、「情報の中心」という2つの意味が込められた「ハイアット セントリック」は、ハイアットの新しいライフスタイル ホテルブランドとして2015年1月に誕生しました。ブランドの基本理念は“その街の最もエキサイティングな魅力発信源”であり、「ハイアット セントリック 金沢」は、金沢と世界、地元の人々と旅行者をつなぐ拠点として、金沢の新しい魅力を発信してまいります。

そしてもう一つ、日本初上陸となる「ハイアット ハウス」は長期滞在型のセレクトサービスブランドで、自宅のような寛ぎとホテルならではの快適さを融合した空間を提供します。“街に暮らすように過ごす旅”をコンセプトにした「ハイアットハウス 金沢」では、居住性を重視した広い客室(平均40㎡台)内に、電化製品が揃うミニキッチンやダイニングテーブル、落ち着いて寛げるソファやランドリーなど、快適な滞在に必要なものを取り揃えています。古都・金沢の風情にひたり、新鮮な地産食材を市場で買い求め、自宅のような空間で自由に調理・食して楽しむといった中長期レジャー利用や、地元企業への出張などのビジネス利用にもお勧めの施設となります。魅力あふれる古都金沢の街を、ゆっくりとそして最大限に楽しみながら自分の生活スタイルのままに旅する、そんな贅沢な時の過ごし方を「ハイアット ハウス」は提案いたします。

この2つのハイアットホテルを拠点として、国内外から訪れる旅行者の皆さまが金沢の魅力と可能性を見つけながら、思い思いの金沢体験を最大限に楽しむことができる空間を提供いたします。

日本ハイアット株式会社の代表取締役 阿部博秀は、「かねてより念願の金沢の地に進出できることは非常に嬉しいことであり、またひとつの複合施設に2つの異なるハイアットブランドを同時開業するのは日本初で、弊社にとって極めて重要なプロジェクトです。「ハイアット セントリック」と「ハイアット ハウス」という新しいブランドを展開いたしますが、どちらも優雅で品格ある金沢という土地に根差し、国内外のハイエンドトラベラーと地域コミュニティの皆様のご期待に応えられるホテル、それぞれのブランドが目指す新しいコンセプト、プロダクト、サービスを実現できるクオリティの高いホテル創りを目指します」と、述べております。

ハイアット セントリックについて

ハイアット セントリックは、ホテルに“宿泊する場所”以上の存在意義や価値観を求める世代を超えた幅広い年齢層のお客様のためのライフスタイル ホテル ブランドで、「いつでも、どの街でも、あらゆること」の中心にいます。ハイアット セントリックの名前には「街の中心」「情報の中心」という2つの意味を込められており、旅の目的が例えばビジネスであっても、その街の個性と魅力を肌で感じるエキサイティングな体験へとゲストを誘います。

各ホテルの雰囲気と個性に合わせ、シンプルでありながら配慮の行き届いた、合理的で効率的なサービスを提供します。いつでも快適にインターネットに接続できるデジタル環境を完備する

と同時に、ゲストとホテルスタッフとのインタラクションも大切にしています。特に時間に余裕のない出張中のお客様に、ゲスト一人ひとりにフィットしたスマートで快適なアドバイスで、旅を更に有意義なものにします。

ハイアット ハウスについて

セレクトサービスの「ハイアット ハウス」は、ビジネスとレジャーの両方に最適な長期滞在型のホテルです。快適で飾らない空間、まるでご自宅にいるかのような雰囲気の中で上質なサービスと設備でお客様をおもてなしするというコンセプトのもと、2012 年に誕生した新しいブランドです。客室には、ミニキッチン、電子レンジ、冷蔵庫、ダイニングテーブル、足を伸ばしてゆったりと寛げるソファ、ランドリー施設と、快適な滞在に必要なものが全て揃っています。レストランでは、温かい朝食を無料でお楽しみいただけます。旅先でもご自宅と変わらない日常をお届けする、それがハイアット ハウスです。

ハイアット ホテルズ コーポレーションについて

ハイアット ホテルズ コーポレーション(本社:米国イリノイ州シカゴ)は、2016年3月31日現在、世界56カ国で708軒のホテル、リゾート、レジデンス、バケーションオーナーシップ施設を、運営、フランチャイズ管理、ライセンス契約、所有、開発する世界有数のホスピタリティ企業です。私たち企業の意思決定と成長戦略はハイアットの信念である「思いやりの心で相手の“最高”を導き出す」に基づいており、株主のための企業価値を創造し、お客様との信頼関係を構築し、最も良い人材を惹きつける、誰からも愛されるホスピタリティブランドであることを目的としています。

ハイアットは世界中でパーク ハイアット(Park Hyatt)、ミラバル(Miraval)、グランド ハイアット(Grand Hyatt)、ハイアット リージェンシー(Hyatt Regency)、ハイアット(Hyatt)、アンダーズ(Andaz)、ハイアット セントリック(Hyatt Centric)、アンバウンドコレクション by Hyatt (The Unbound Collection by Hyatt)、ハイアット プレイス(Hyatt Place)、ハイアット ハウス(Hyatt House)、ハイアット ジーヴァ(Hyatt Ziva)、ハイアット ジラーラ(Hyatt Zilara)、ハイアット レジデンス クラブ(Hyatt Residence Club)の13のプレミアムブランドを展開しています。詳しくはwww.hyatt.comをご覧ください。

将来予測に関する記述について

本プレスリリースに含まれる記述で歴史的事実でないものは、1995年米国私募証券訴訟改革法(Private Securities Litigation Reform Act of 1995)が定める「将来予測に関する記述」(Forward-Looking Statement)に該当します。かかる記述は、当社の計画、戦略、財務実績、将来見通しもしくは将来事象に関する記述を含み、また予測困難な既知もしくは未知のリスクに関わります。このため、当社の実際の成果や業績は、将来予測に関する記述に明示または暗示されている内容と大きく異なる場合があります。かかる記述の文中にある「かもしれない(may)」、「可能性がある(could)」、「期待する(expect)」、「意向である(intend)」、「計画している(plan)」、「求める(seek)」、「予想する(anticipate)」、「考えている(believe)」、「予測する(estimate)」、「予想する(predict)」、「潜在的(potential)」、「続ける(continue)」、「あり得る(likely)」、「するつもりである(will)」、「するかもしれない(would)」その他これらに類する単語や類似の表現、又はその否定形の使用によって、当該文章が「将来予測に関する記述」であると判断できることがあります。「将来予測に関する記述」は、当社及び当社の経営陣によってその内容が妥当であると判断されていながらも、必然的に不確かな性質の予測及び前提に基づくものです。現在の期待と実際の結果との間に大きな相違をもたらさうる要因としては、現在の景気低迷の落ち込

み度合いとその継続期間、当事業や旅行・レジャー業界における消費水準と顧客の信頼、客室稼働率や平均宿泊料金の低下、将来起こり得るテロ攻撃などの敵対行為や旅行に影響を及ぼす敵対行為発生の恐れ、旅行関連の事故、当社顧客の嗜好や選好の変化、提携業者や労働組合との関係、労働法の改正、他の資産所有者、フランチャイズ加盟者もしくはホスピタリティー事業パートナー等の財務状況及びこれら当事者と当社との関係、将来的な買収及び処分並びに新たなブランドコンセプト導入に伴うリスク、当社が事業を行う業界や市場における競争環境の変化、法的手続の結果、連邦・州・地域または外国の税法の改正、為替相場の変動、資本市場の一般的な価格変動や当社の資本市場へのアクセス力等々が含まれます。かかるリスク及び不確定要素については、米国証券取引委員会に提出されている各種報告書(書式 10-K による年次報告書を含む)において、より完全に記載されています。本プレスリリースの配信日現在において発表された将来予測に関する記述に過度に依拠されることのないようご注意ください。当社は、適用法令によって義務付けられる場合を除き、実際の結果、新たな情報、将来の事象、前提条件の変化、その他将来予測に関する記述に影響を及ぼす要素の変化を、かかる記述に反映させるように将来予測に関する記述を公的に更新する義務を負いません。仮に、当社が将来予測に関する記述の 1 つまたは複数について更新した場合であっても、そのことから、その後、かかる記述又は他の将来予測に関する記述に関してさらなる更新がなされることを意味するものではありません。

本件に関する報道関係者お問い合わせ先

ハイアット ホテルズ アンド リゾーツ 仲松

TEL: 03 3222 4088(直通) FAX: 03 3222 0390 Email : yoko.nakamatsu@hyatt.com

ハイアット ホテルズ アンド リゾーツ広報事務局 川島、副島、國時

TEL: 03 3571 5326 FAX: 03 3574 0316 Email : hyattjapanpr@kyodo-pr.co.jp



「ハイアット セントリック 金沢」「ハイアット ハウス 金沢」
施設概要

ホテル名: ハイアット セントリック 金沢 (Hyatt Centric Kanazawa)
 ハイアット ハウス 金沢 (Hyatt House Kanazawa)

計画地: 石川県金沢市広岡 1 丁目 501 番他(地番)

アクセス: 鉄道・バス:JR 金沢駅「金沢港口」徒歩 2 分

所有・経営会社: オリックス株式会社

運営会社: ハイアット インターナショナル アジアパシフィック リミテッド
 (ハイアット ホテルズ コーポレーションの関連会社)

ホテル施設: ハイアット セントリック 金沢
 客室数: 約 250 室
 料飲施設: 2
 その他施設: 会議・イベントスペース、フィットネスジム
 階数:1~14 階

ハイアット ハウス 金沢
 客室数: 約 90 室
 料飲施設: 1
 その他施設: ランドリー、フィットネスジム
 階数:3~7 階

開業予定: 2020 年(平成 32 年)6 月開業予定

* 上記概要は 2017 年 6 月 7 日現在のものです、変更になる可能性があります。